

樟徳館の保全と活用に関する研究

—— 樟徳館研究の総括と資料集成の作成 ——

一 棟 宏 子
辻 壽 一
若 井 希水子

2000年に登録有形文化財に登録された樟徳館は、和洋折衷様式を取り入れた質の高い近代住宅であり、樟蔭学園の貴重な文化的財産である。本研究は、①これまでの樟徳館研究の成果を検討し、資料集成として小冊子にまとめること ②学園の協力と支援を得て、未開拓資料の発見と資料整理に努めること ③今後の樟徳館の保全と活用に向けた課題を検討し、環境整備について提言を行うこと、を目的に実施した。研究成果を学園関係者が共有することにより、今後の研究の広がり期待できること、資料の散逸を防ぎ、建物の保全を進めるためにも、研究の推移をまとめることは意義深いと考えたからである。

以下に示すように、「樟徳館研究のあゆみ」(全110ページ)として研究の経緯を冊子にまとめることができた。樟徳館研究は緒についたばかりで、その歩みは遅々としているが、それは①個人の居宅であったため、資料保存の面で不備が多いこと、②1939年の建設当時、森平蔵氏は64歳であり、85歳で逝去されるまで21年間居住したが、その後現在まで48年が経過、建設当時や日常の居住状況を知る人々が少なくなり、かつ高齢化していること等、研究を進めるうえで困難な点が多かった。今後、これまで開示されていない場所で新たな資料の発見や、未整理な資料の解明が必要であると考えられる。

「樟徳館研究のあゆみ」の内容

1. はじめに
 2. 樟徳館(旧森平蔵邸)のなりたちと建物の概要
 - 2-1 森平蔵邸の建設に関する記録
 - 2-2 「樟徳館」の誕生
 - 2-3 樟徳館の敷地と建物の規模
 - 2-4 樟徳館の建物構成とその特徴
 - 2-5 森平蔵氏について
 - 2-6 樟徳館の使用状況
 3. 樟徳館研究のとりくみ
 - 3-1 樟徳館の紹介と研究の始まり
 - 3-2 卒業研究としてのとりくみ
 - 3-3 研究論文にみられる樟徳館
 4. 樟徳館(旧森平蔵邸)の特徴について
 - 4-1 対峙するような和洋折衷
 - 4-2 和風仕様の独特な応用
 - 4-3 森平蔵氏の思いがこもった住宅
 - 4-4 よく考慮された平面・壁天井仕様と工夫
 - 4-5 樟徳館・造作別材木(銘木)の種類
 - 4-6 1本の太木から木取りの徹底
 - 4-7 同年代の建築との比較
 - 4-8 造作別種類
 5. 樟徳館の活用について
 - 5-1 登録有形文化財について
 - 5-2 登録有形文化財の活用事例
 - 5-3 樟徳館の今後の活用について
 6. おわりに
- 資料編